

新宿区立漱石山房記念館 令和6年度第2回運営学術委員会 議事概要

日 時：令和7年3月26日(水) 10時から12時まで

会 場：新宿区立漱石山房記念館 地下1階 講座室

出席委員：半田昌之会長、中村廣子副会長、大木志門委員、大木真徳委員、松下浩幸委員、
山岸吉弘委員、吉川友子委員、松澤亮委員、守谷賢一委員、村上京子委員、
北見恭一委員（11名）

欠席委員：佐藤裕子委員、河野奈美江委員、山口進委員、波多江誠委員（4名）

事務局：新宿区文化観光課

村上喜孝(文化観光課長)、北村ころろ(文化資源係長)、山田郁也(文化観光課主任主事)、久米美弥子(文化観光課主任主事・学芸員)、弥永直子(文化財研究員)

財 団：公益財団法人新宿未来創造財団（漱石山房記念館指定管理者）

岡崎保(文化・芸術振興部長)、福田義和(漱石山房記念館係長)、今野慶信(漱石山房記念館学芸員)

1 【次第】

1 通常展「夏目漱石と漱石山房」其の二 見学

2 議 事

- (1)通常展見学の感想等
- (2)令和7年度の事業予定について
- (3)その他

2 【議事概要】

(1)通常展「夏目漱石と漱石山房」其の二 感想等について

- ・子どもが見た場合難しいと感じるので、子ども向け解説シート、概要版などがほしい。
- ・俳句などもいろいろな角度で見ることができた。
- ・記念館の基盤となる展示だ。継続することが大事。

◆展示会タイトル等について

- ・展示会名について、「其の一」「其の二」のようなナンバー入りのものは、一度見逃してしまうと来館者が疎外感を覚えて足が遠のいてしまわないか。ナンバーよりはサブタイトルで工夫する展示会名のほうがよいのでは。
- ・「通常展」という名称はわかりづらい。タイトルは大事なので、キャッチーなもので新しい来館者を呼び込む工夫を期待する。

- ・シリーズとしてのタイトルということはわかる。やはり通常展というのはスペシャル感がない。新収蔵資料をタイムリーに公開していくこと。地域からの理解を得るためにも新収蔵資料等の御披露目は大切。限られたスペースの中で、構成した学芸員の思いがわかる。もう少しスペースがあれば。その兼ね合いにつきる。
- ・「夏目漱石と漱石山房」という展示は、どのような思いで企画したのか。

回答：漱石と漱石山房に直結するタイトルで、継続して企画していくには適当だと考えている。展示会名は、サブタイトルやリードを工夫するよう検討したい。

◆基金を活用し購入した展示資料について（「新宿区夏目漱石記念施設整備基金」）

- ・やはり基金を利用して資料購入できることが大きく、現在では稀有なこと。正規予算では困難だと思う。
- ・基金で購入したことの明示、御礼についてどうなっているか。基金があり、資料収集に活用されている。とにかく発信することが大事。
- ・チラシの解説にももう少しわかりやすく明記してはどうか。キャプションには「寄(贈)」とか「購(入)」とかひと目でわかるよう明示してはどうか。撮影はエリア分けできれば良いが、無理ならば一点単位でも許可すれば来館者には良いのでは。
- ・夏の「どうぶつ」展示、グッズは必須だと思う。来館するメリットを提示する。

回答：個々の資料のキャプションに明示している。またチラシに掲載した資料写真にも明示している。謝辞については展示室の出口にパネルを掲出している。撮影に関しては、あらたに2階の「漱石の言葉」コーナーを撮影可とした。今後、寄託資料については寄託者の意向等も確認する必要がある。

- ・2階の展示スペースは撮影禁止とあるが、区所蔵資料は撮影可としても良いのではないか。
- ・「撮影可」でも良い資料もあると思う。
- ・図録まではいかなくてもちょっといい冊子があるとお得感が生まれるのではないか。そのために観覧料を50円上乘せしてもよいと思う。

回答：夏休み企画等、展示毎にアイデアを工夫したい。（門下生）小宮豊隆のような一般には認知度が低い人物の紹介には、漫画家香日ゆら氏と連携するなどして親しみやすい内容とし、YouTube や X で発信した。ミュージアムショップの関連グッズも好評を得た。令和6年度は1,000万円近い売上げ。アクリルスタンドは、Instagram やブログで注目された。

- ・作家の著作権についてはナイーブではある。流れとしてはオープンソース化、パブリックドメイン化。欧米ではそれが潮流となっている。日本では利用料金で収入を得ている。仕組みを考えていかねばならない。YouTube は面白い試み。個々の資料を掘り下げていったり、子ども向けコンテンツを制作したりしては。スマホでも見られる。充実を図っていただきたい。

回答：毎回いろいろなバリエーションで工夫する必要がある。基金からは毎年度1千万円を予算計上している。それを基礎とした資料の収集計画については、漱石山房に集った人々の交流を示す資料を対象とし、古書市場を注視していく。次期指定管理期間は令和8年度からとなる。現状と課題を整理するとともに、頂戴したご意見を参考としたい。

(2)令和7年度の事業予定について

◆《通常展》テーマ展示「そうせきとどうぶつたち」について

- ・「そうせきどうぶつたち」は子どもの目線で考えてほしい。ネコのキャラクターや「山鳥」原稿などを大きく拡大したパネルにして一緒に撮影できるなど。
- ・どうぶつについてはネコは動きやすいので、いろいろ工夫できるのでは。

◆他機関等との連携について

- ・熊本など他都市等との連携はどのように考えているか。

回答：熊本県竹あかり、熊本県玉名市の俳句フォトなど。小宮豊隆に関しては福岡県みやこ町、令和8年度は「坊っちゃん」で松山市、東京理科大学等との連携を模索していく。

回答：熊本県には漱石コンクールで熊本賞をご提供いただいております、表彰式にはくまモンにご登場いただいております。松山市については俳句ポストを漱石公園の道草庵に設置している。

◆教育活動支援について

- ・教育活動支援についてはどうなっているか。出前授業等をやっているのか。

回答：社会科見学については新宿歴史博物館が対象となっており、またバスが駐車できない漱石山房記念館をコースに組み込むのはなかなか難しい。区内外の中学・高校・大学の授業の一環としての来館は多い。映像を流したり、レクチャーをしたりして対応する。ホームページに学校向けページを検討中である。先生方の口コミ等も期待している。出前講座は地域団体も含め対応している。

- ・地域の中の文学館として活動を充実されたい。
- ・読書感想文、調べ学習への対応もよろしくお願ひしたい。

回答：本や読書に親しんでもらうことが大切。メニューは工夫していきたい。常時、問合せは多いが個別対応している。

- ・そのことを、教育活動支援に書き入れた方がよい。親子で参加できるメニューについてもよろしくお願ひしたい。

(3)その他

①アンケート集計結果について

- ・道がわかりにくいという意見がある。駅や道路のサイン等の充実は図れないか。都営大江戸線の牛込柳町駅の電光地図には草間彌生美術館も載っていない。地図横の箇条書きのリストには掲載されている。

回答：付近の外苑東通りは道路整備中で占用許可が下りない特殊事情がある。工事を注視し

つつ申し入れをしていく。

- ・地下鉄の駅の五十音の施設名リストはどうか。
回答：東西線早稲田駅の1番、2番出口の案内リストには明示されている。
- ・回答：東京メトロについては事業者側のルールがあるようだ。
- ・アンケートの評価は良い。記念館の尽力の成果だ。引き続きよろしくお願ひしたい。
- ・スタッフのモチベーションにつながる。

②その他の意見等

- ・弟子や周辺人物をもっとわかりやすく紹介してはどうか。
- ・資料とキャプションの情報量との兼ね合いは難しいところ。
- ・所蔵資料の目録の公開も必要だ。
- ・改正博物館法でも重視されるデジタルアーカイブの構築、公開を推進していく必要がある。記念館と区が連携して進めていきたい。
- ・若い人にも理解しやすい、そういう技術を十分活用していくことが必要だ。子どもにはなかなか難しい内容だが、将来の動機づけとなるようにしていくことが大切だ。
- ・記念館の館名は、新宿区立漱石山房記念館でなければならないのか。新宿区立は必要か。
回答：設置条例で規定されている。チラシ等ではとっても良いと思う。発信しやすい呼称、愛称などもあり得るかもしれない。
- ・東京国立博物館は「トーハク」と呼んでいる。そのような愛称について検討の余地がある。